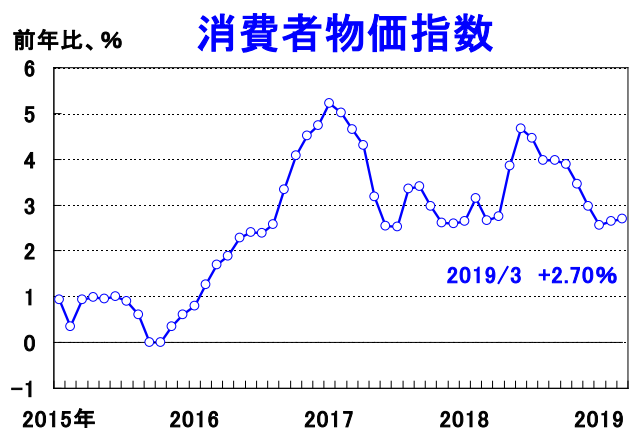
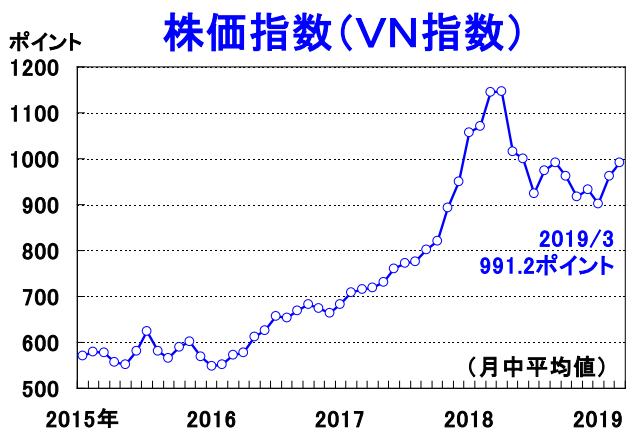
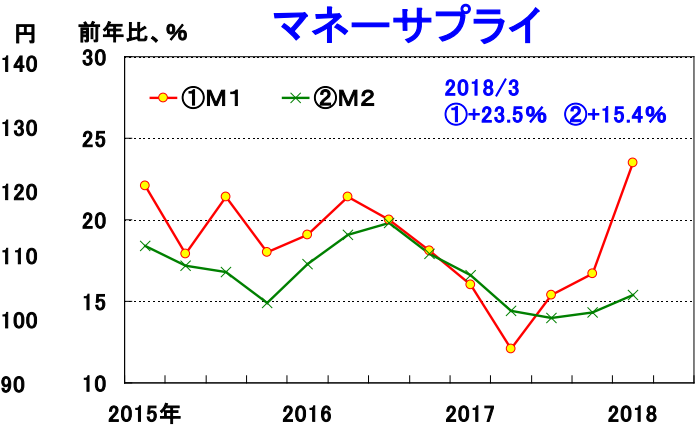
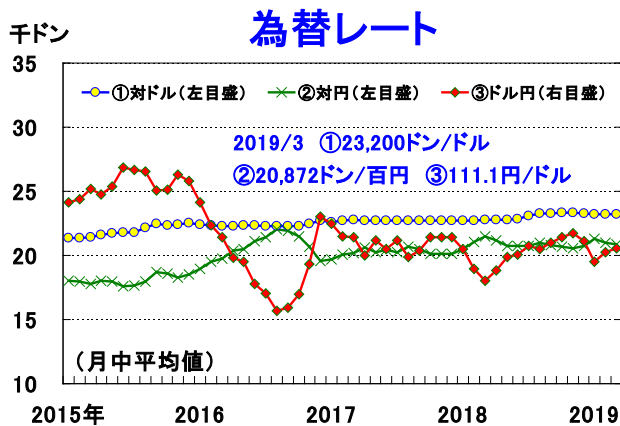
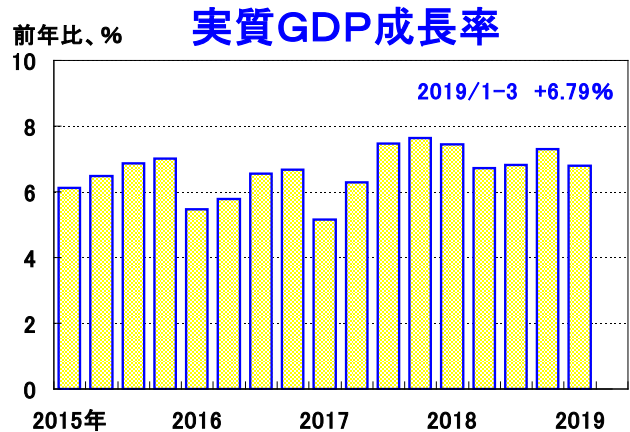
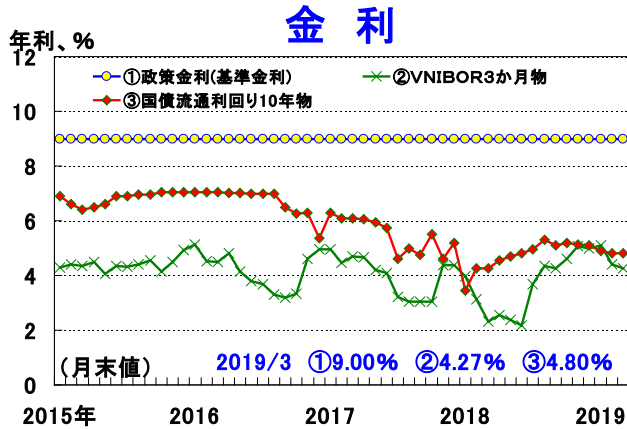


# グラフで見るベトナム経済 2019年4月号(No. 111)

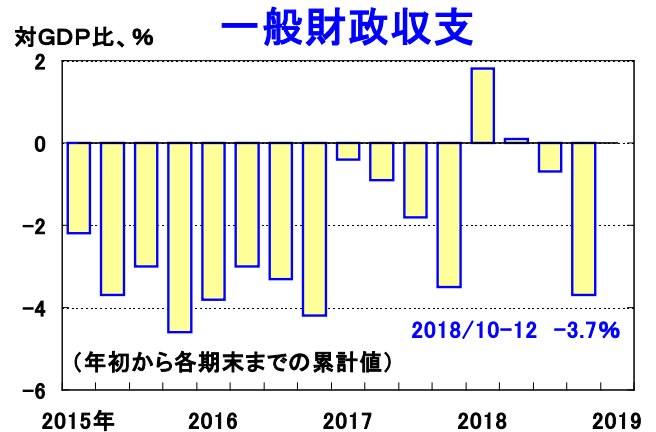
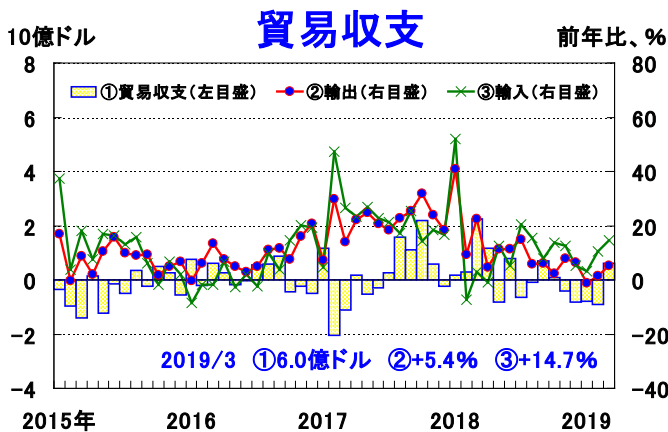
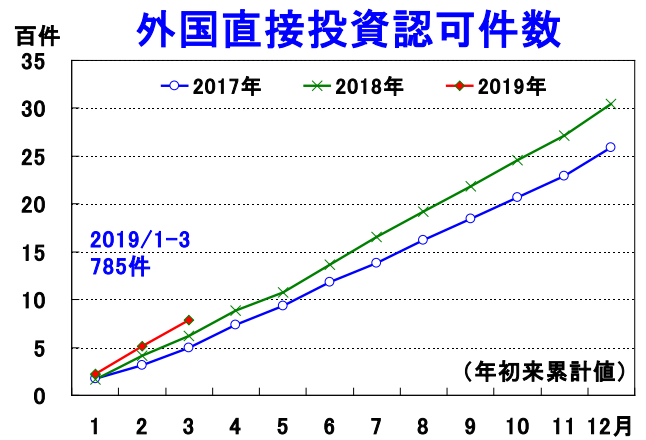
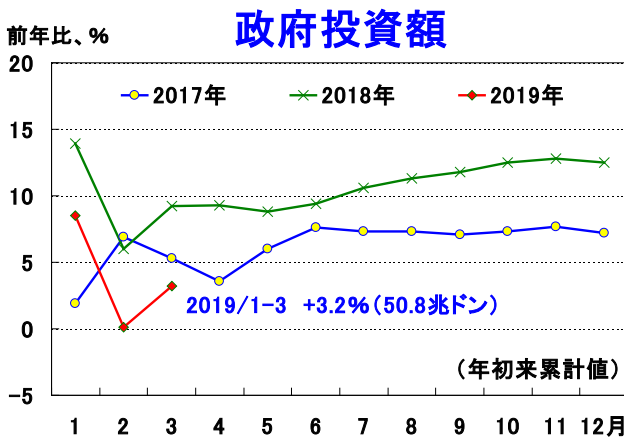
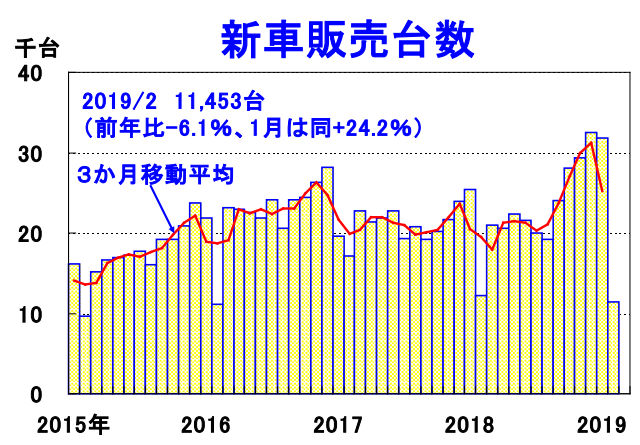
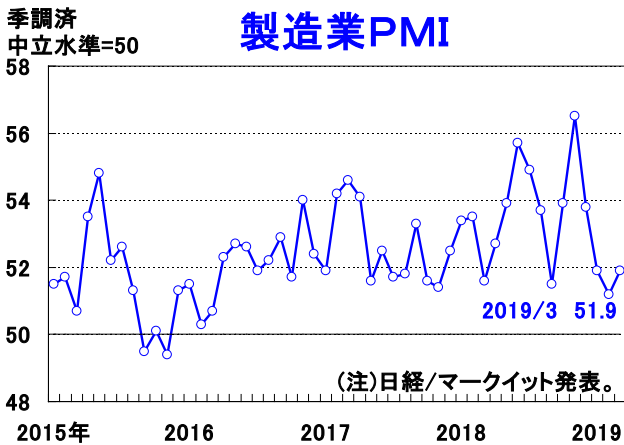
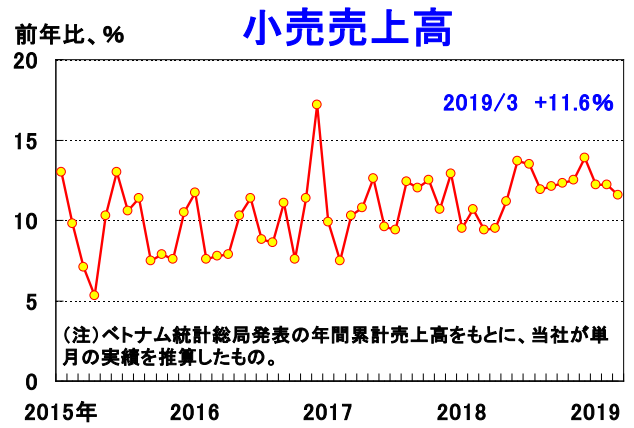
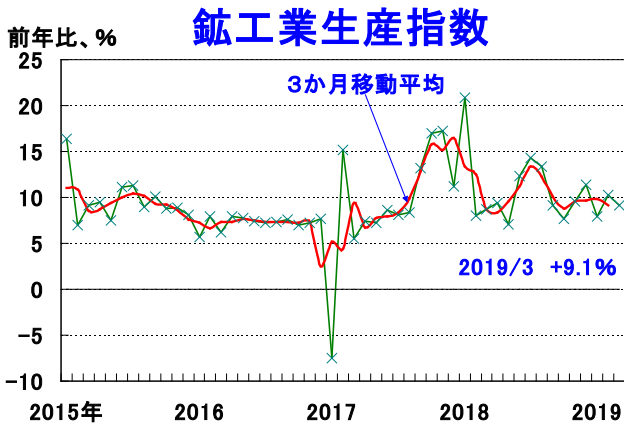
2019年1～3月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+6.79%(推定値、前期は同+7.31%)と、成長率が3四半期ぶりに低下した。輸出(2018年10～12月期:前年比+10.69%→2019年1～3月期:同+6.81%)と総固定資本形成(10～12月期:同+9.06%→1～3月期:同+6.20%)が大幅に減速し、また最終消費(10～12月期:同+7.51%→1～3月期:同+7.09%)も伸びが低下した。一方、月次指標をみると、3月の製造業PMI(中立水準は50)は51.9と、「生産」や「新規受注」の堅調な増加により、前月の51.2から上昇した。



【今月のトピック: 日本が2年連続で直接投資国の第一位に】 ベトナムの計画投資省によると、2018年にベトナムが受け入れた直接投資は354.6億ドル、前年比-1.2%となった。日本からの直接投資は85.9億ドルであり、日本は2年連続でトップとなった。日本による直接投資が増加している背景としては、ベトナム政府が高い技術力を有する日本の建設業によるインフラ整備を歓迎していることがあげられる。加えて、一部の日本企業がこれまでのタイへの集中的な投資を見直しており、リスク分散のためベトナムを新たな投資先として選択していることも指摘されている。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。